
週末の顛末（仮題）

たけのすけ2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

週末の顛末（仮題）

【Nコード】

N2800L

【作者名】

たけのすけ2

【あらすじ】

通勤の合間に心暖まるSSをお届け

眩きみたいな俺のブログが、なんでか派遣の女どもに知れ渡った。不本意だが、俺は会社でビビリの恐妻家として一躍有名になった。

上司の目も気のせいかな冷やややかな気がする。何より同僚が、上からものを言う態度になったのが気に障る。

以前は家に居るのが苦痛で用も無いのに休日出勤したりしていたが、今は勤務時間が終わるのが待ちどおしい。

日曜は余り外出しないタイプなんだがこの間

「出かけるぜ。飯はいらねえ。食って帰るから」
つて家をでた。

なめられっぱなしで堪るか。

家を出ると、すぐ近くの地下鉄の駅から下り電車に乗った。二つ目の駅を降りて少し歩く。閑静な住宅地のど真ん中に大きなマンションが建っていて、その一階に喫茶店があった。

入り口の前で看板に目をやり、店名を確認してドアを開く。

喫茶店は空いていて、先客は一人だけ。軽く右手を挙げてそいつの方に歩み寄る。

（やはり男か）

ここまで妻を尾けてきて嫌な予感はあるが当然あったのだが、実際目の当

たりにするとやはり動揺する。

俺は硝子張りの店内を街路樹の陰から観察した。

心臓の鼓動が二人に届くんじやないかって位高鳴る。

まさか出掛ける時の言葉通り、食事だけで帰るとは考え難い。

二人は何事が親しげに談笑している。遠目に見て五十代位のその男は時折、ねぎらう様に妻の肩を撫で回した。

俺はやりきれなさで帰りたくなつたが、煙草を吹かしながら虚ろに眺めていた。

妻とその男は喫茶店を出ると、すぐ脇の住人用のマンション入口から中へ入っていった。

セキュリティが俺を阻んでそれ以上の事はわからない。

途方に暮れた俺は帰路に着いたが、どうやって家まで辿りついたかは覚えていない。随分遠回りしたのか、もう日は傾いていた。

独りぼつちの家で、泣きながら以上のことをブログに書き込んでいると妻が帰ってきた。

問い詰める勇氣もない俺が、お帰りも言わずにキーボードを叩き続けていますと

「ただいまって言うてんだろ。返事は」

怒声を上げて部屋に殴り込んでくる妻。

精一杯の氣力を振り絞って俺は声を出した。

「れ、怜子さんこそ・・・ど・・・何処行つてたんだよ」

妻は俺の座っている椅子を蹴り上げてこういった。

「てめえも見てたから知ってたんだろうが。親父が知り合いのマンション安く譲って貰えそうだからって一緒に見にいってたんだよ。文句あんのかコラ」

妻は俺の尾行に気づいていた。

そして三年前の結婚式以来疎遠になっている義父の面影が、やっと昏間の男の顔と一致した。

「あああああ、怜子さんごめんなさい、ちょっとでもうたがって、本当すいませんでしたああああ」

妻の連続踵落としを顔面に浴びながら、俺は謝り続けた。

「なに人の後つけ回してんだよ気色わりい」

疲れて攻撃を緩めた妻は、少しだけ優しい声で、

「・・・まあいい、今日はてめえの誕生日だろ。親父と寿司食って来たけど、ほら、土産だ」

と言うと自分の寝室へと向かった。

すっかり忘れていたが、今日は俺の三十回目の誕生日だ。急に目頭が熱くなった。

怜子さんごめんね。

仕事もあるのに家事もして大変だなんて愚痴言ってごめんね。

掃除も洗濯も食器洗いも、買い物もゴミ出しも町内会の会合も、なんだったら夕飯作る以外は何もしない君だけど愛しています。怜子さんカンピョウ巻き美味しいです。少ししょっぱくて鉄の味がするけど。

これからは残業減らして夕飯もボクが作るからね。

玲子さんのソファァーが傷まない様に今夜は床で寝ることにします。

(後書き)

よかつたら感想&mp・批評くださいな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2800/>

週末の顛末（仮題）

2011年1月26日07時05分発行